湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部看護学科
名　前　小林紀明
作成日　2026 年 5 月 22 日

1. 教育の責任

小林紀明は、本学保健医療学部看護学科及び同大学院保健医療学研究科健康増進・予防領域に所属し、専門分野である在宅看護学領域の教授として教育と研究に携わっている。

本学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という理念のもとに、高度な技術と知識とともに、豊かな人間性を育み、構造的かつ実践的な教育研究を通じて、地域の貢献する人材の育成を目指している。

保健医療学部看護学科は、「幅広い視野で人間を理解できる教養を備え、専門職業人としての倫理観を育み、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力および地域社会に貢献できる能力を持つ人材の育成」を目的としている。

自身は、2019 年度より在宅看護学全般を中心とした以下の科目を担当している。また、大学院保健医療学研究科（修士課程・博士後期課程）や、認定管理者教育課程（セカンドレベル・サードレベル）、実習指導者講習会などの科目も担当している。

1）授業科目：

（1）学部・学科（保健医療学部・看護学科）

科目名	学年	必修/選択	開講年度	単位
在宅看護学概論	2 年前期	必修	2019 年度～2021 年度	1
在宅看護方法論Ⅰ	2 年後期	必修	2019 年度～2022 年度	1
在宅看護方法論Ⅱ	3 年前期	必修	2019 年度～2023 年度	1
在宅看護方法論	3 年前期	必修	2024 年度～	1
地域・在宅看護学	1 年後期	必修	2022 年度～	1
プロフェッショナル論Ⅱ	3 年前期	必修	2024 年度～	1
保健医療看護の最前線	4 年前期	選択	2025 年度～	2
在宅看護学実習	3 年後期	必修	2019 年度～2023 年度	2
慢性期看護実習	3 年後期	必修	2024 年度～	6
統合実習	4 年前期	必修	2019 年度～	2
看護研究Ⅱ	4 年前期	必修	2019 年度～2024 年度	1
看護研究	3 年前期	必修	2024 年度～	2
チーム医療論	4 年後期	必修	2019 年度～	1
看護基礎ゼミ	1 年前期	必修	2021 年度、2025 年度	1
看護応用ゼミ	4 年前期	必修	2020 年度、2024 年度	1

（2）大学院（修士課程）

科目名	学年	必修/選択	開講年度	単位
在宅・公衆衛生学特論Ⅰ	1 年前期	選択	2019 年度～2023 年度	2

在宅・公衆衛生学特論Ⅱ	1 年前期	選択	2019 年度～	2
在宅・公衆衛生学演習	1 年後期	選択	2019 年度～	4
生活支援医療学特論Ⅲ	1 年前期	選択	2022 年度～	2
保健医療学特論	1 年前期	必修	2022 年度～	2
多職種協働・地域連携特論	1 年後期	必修	2022 年度～	2
健康増進・予防特別研究	1~2 年通年	選択	2022 年度～	10

(3)大学院(博士後期課程)

科目名	必修/選択	開講年度	単位
地域生活ケアシステム学特論	選択	2024 年度～	2
地域生活ケアシステム学演習	選択	2024 年度～	4
看護学特別研究	選択	2024 年度～	10

(4)認定看護師教育課程(認知症看護)

科目名	必修/選択	開講年度	時間
認知症に関わる保健、医療、福祉制度	必須	2020 年度～2022 年度	6～8

(5)認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)

科目名	必修/選択	開講年度	時間
ヘルスケアシステム論Ⅱ	必修	2023 年度～	6
ヘルスケアシステム論Ⅲ	必修	2025 年度～	6

(6)保健師助産師看護師実習指導者講習会

科目名	必修/選択	開講年度	時間
実習指導方法論③　地域・在宅看護学	必須	2024 年度～	3

教育活動における学務分掌等については、以下の業務を担っている。

2)教育活動(顧問、学務分掌、学科内担当等):

(1)学務分掌

・入試委員会(2022 年度～至現在)
・入試判定会議委員(2022 年度～2024 年度)
・自己点検・評価委員会委員(2023 年度～至現在)
・地域連携推進委員会委員(2023 年度～至現在)
・学生支援委員会委員(2019 年度～2021 年度)
・認定看護師教育課程(認知症看護)教員会委員(2022 年度)

・入試ワーキング担当（2020 年度～2023 年度）
・募集員会（2024 年度）
・入試広報委員会（2025 年度～）
（2）学科内担当
・入学試験担当（2019 年～2023 年度）
・ヘルスケア看護領域長（2022 年度～至現在）
・各学年チューター長（2019 年度～2024 年度）
・学生支援委員会（2019 年～2020 年：委員長、2021 年：委員）
・国家試験対策委員会委員長（2020 年度、2024 年度）
・入試広報委員長（2025 年度～）
（3）地域貢献活動
①公開講座：教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会への貢献を通して地域の健康増進に資する
・テーマ：「人口減少と AI ～40 年後の未来をどう生きる？～」（2019 年 9 月 28 日実施）
②出張授業：地域住民の要望に応じ講座を開催し健康をサポートする
・テーマ：「自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～」（2023 年度～公開中）
2024 年 5 月 31 日(金) 相模大野（ユニコム相模原）にて講演会実施
2024 年 7 月 31 日(水) 町田（町田市民ホール）にて講演会実施
（4）学会活動
・日本アディクション看護学会 指名理事（2022 年度～2024 年度）
・日本学会アディクション看護 査読委員（2021 年度）

以上のような、本学の学部・大学院・キャリア支援プログラムなどにかかわる中での教授としての役割は、授業と研究だけに留まることなく、学会活動や学術振興に貢献していくこと、研究成果を社会に還元すること、健全な学校運営に貢献すること、専門職育成のための教育的なかかわりを持つことなど、様々な責務を果たすことが求められている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

日本の保健・医療・福祉は大きな転換期を迎え、従来の病院完結型から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型の体制へと大きく変化している。その中で看護が果たすべき役割は、健康の維持・増進、疾病の予防から始まり、疾病・障害を抱えながらの療養生活の継続、そして人生を全うするまでを、地域で支えるための重要な柱の一つであることが求められる。したがって、現代の看護教育には、様々な健康状態にある人々を一人の生きる人間として、「医療」の視点だけでなく、むしろその人が生きていく営みとしての「生活」を視点の中心において総合的にとらえる能力を持った看護師を育てる必要がある。さらに、自身が在宅看護を専門とし、多職種連携・協働に関する研究に取り組んでいること

から、看護職はより多くの職種と連携・協働する能力を獲得していくことも重要だと考える。

現代の学生に求めることは、命に対する尊厳と倫理観を持ち、主体的に行動し己を律する力と信頼関係を獲得できるコミュニケーション力を培ってほしい。そして、看護専門職としての誇りと責任をもって病院や地域社会等で活躍してくれることを望んでいる。

2) 理念をもつに至った背景

自身の教育理念の背景は次の2点がある。第 1 点は、看護の対象を捉える視点これまでの看護教育は、看護の対象を医療モデルの考え方を基本とする「問題指向型」の視点で捉えることが中心であった。そのため、その人も持っている力＝ストレングスへ視点を向ける力が弱いという問題点を抱えてきた。ストレングスへ視点を向ける力とは「目標志向型」を意味する。日本の医療が転換期を迎えている中で、その人が生きていく営みとしての「生活」を視点の中心におき、問題志向と目標志向の両側面から総合的にとらえる能力が求められていることを教育の中に取り入れる必要性を強く感じたからである。第 2 点は、多職種連携・協働に関する研究に取り組んでいる中で、看護だけではその人の自立に向けた望む生活を支援することは難しく、そのために求められる、多職種との連携・協働できる能力の育成を基礎教育の段階から実践する必要性を強く感じたからである。

3. 教育の方法・戦略

1） 学部における講義・演習

【概要】

学部生の人数は、2021 年度入学生までは 80 名、2022 年度から 140 名、2026 年度から 165 名へ増員し、2026 年度入学の 1 年生は 2campus に分かれての講義となる。初回の講義・演習はその科目の全体像を示し、各単元をどのようは形式で進めるのかを、シラバスや全体像が分かる資料を作成して伝えている。科目責任者となっている講義は概論系の科目であるため、教授方法は説明が中心となる。

【方針】

①教授方法

・一部を穴埋めにした形式の PPT を使って説明する方法

・学習者がその場で提示された question を research する方法

・講義型の説明途中に問いを入れ込む「問答型授業」

・アクティブ・ラーニングなど

※上記の方法を単元の内容に合わせて実施している。

②授業の工夫

・毎回単元ごとに学習目標を提示し、その目標を時間内に達成することを目指す

・テキストに戻って学習内容を確認できるように、その単元で取り扱う内容がテキストのどこに記載されているかをその都度配布資料上に明示し、事前事後の学習の動機付けになるよう

にしている。
・毎回リフレクションペーパーの記載を依頼し、個人ごとの理解度や質問・要望を受け入れる機会をつくっている。質問や要望があった場合は、翌週の講義の冒頭で解説したり可能な範囲で要望にも応えたりしている。
・演習形式の授業では、1グループ 5 名前後で編成し、教員はファシリテーターに徹して学生の思考やグループ内での主体的な行動を重視しながらかかわっている。

③評価方法（試験問題）
・試験はマークシートによる回答と記述式の回答をミックスしておこなっている。マークシートを取り入れている理由は、国家試験問題と同じ形式を取り入れることで問題に慣れることも意識している。
・講義の一部に課題レポートの提出を求めている。レポートの内容も評価の一部（20％程度）としている。

2）学部の実習

【概要】

6 週間 6 単位（270 時間）の実習で、慢性期にある療養者があらゆる生活の場面で必要とする看護について学ぶため、一般病棟、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、精神科病棟、メンタルヘルスケア施設、ハローワークで実習を行う。その中の、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、での実習（3 週間）を担当する。5名の学生×2 クールを担当し、毎日現場に出向いて、指導者である訪問看護師に同行する学生の状況把握や訪問看護計画の指導を行う。

【方針】

①教授方法
・訪問看護ステーションでの実習が中心となり、直接訪問の現場に教員が同席することはできない。そのため実習指導者と密に情報交換をしながら状況を把握し、学生自身からもなるべく訪問場面の状況を詳しく伝えてもらいながら、その中で感じたこと考えたことを整理して語る時間をつくるようにしている。

②実習指導の工夫
・臨地での実習中は指導者とのかかわりをなるべく持てるようにし、学内実習の際に、個別に時間を設けて、看護計画全般の指導に時間をかけて行っている。

③評価方法
・自己評価表を作成して、学生の自己評価を基準にその根拠を個別面接で確認しながら、教員の評価とのずれが生じた場合は、その理由を明確にし、学生が納得した上での最終評価としている。

3）大学院の講義・演習・研究指導

【概要】

・大学院修士課程において科目責任者となっている科目が 3 科目、オムニバスで担当してい

る科目が3科目ある。地域や多職種連携に関連した科目と研究指導の科目である。研究指導は、修士課程において2023年度が主指導で1名、副指導で1名、2024年度は副指導で2名の修了生を輩出している。2025年度は博士課程の院生を2名副指導として担当し、2026年度は計3名の院生の副指導を担当している。

【方針】

①教授方法

・概論系の科目は、一部を穴埋めにした形式のPPTを使って説明する方法を中心とし、説明途中に問いを入れ込む「問答型授業」の形式をとっている。

・研究指導は、担当している院生が社会人で日中は仕事を持っているため、仕事のスケジュールに合わせて、平日は午後6時以降に指導時間を設定して行っている。大学院生は、個々の考え方が明確になっている場合が多いので、その考えを尊重しつつ、新たな視点でも検討できるようなかかわり方を意識して指導している。

②授業の工夫

・毎回リフレクションペーパーの記載を依頼し、個人ごとの理解度や質問・要望を受け入れる機会をつくっている。質問や要望があった場合は、翌週の講義の冒頭で解説したり可能な範囲で要望にも応えたりしている。

③評価方法

・筆記試験は実施しない。適宜出す課題の内容と演習時の参加状況などから総合的に評価している。

4. 学習成果

1）授業評価アンケート結果

2025年度看護学科3年前期授業「プロフェッショナル論Ⅱ」は科目責任者である。15コマの中で、履修生はプロフェッショナルを追求するため、学内の看護教員に対してインタビューを行い質的記述的研究手法を用いてデータを分析し、プロフェッショナルとは何かをグループごとに発表する。本授業のアンケート結果を見ると、5点満点の評価で総合平均得点は4.07で80%以上を示した。しかし、学科平均が4.42でかなりの差が生じた。自由記述から推測できる要因は、階段教室で椅子が固定されているため約130名の学生がグループワークする環境としては適切でなくそれが授業評価にも表れていた。また、研究的なスキルが必要な分、学生への負担が大きくなり、取り組む姿勢に個人差が生じグループワークに影響していた。

2）科研費の研究成果

（1）『平成24年度文部科学省科学研究費補助金：基盤研究（C）の交付』

・テーマ「看護系大学と介護福祉系大学の基礎教育課程におけるIPEの構築」

・本研究は、調査対象を全国の看護大学生と介護福祉系大学生を対象として看護職と介護職の連携に対する認識を明らかにすることを目的とした研究である。

(2)『平成 30 年度文部科学省科学研究費補助金:基盤研究(C)の交付』

・テーマ『介護支援専門員の多職種連携における「協働的能力」に関する調査研究』

・本研究は、介護支援専門員のケアマネジメント能力における多職種連携に必要な「協働的能力」を検証し、その具体的な内容と構造について明らかにすることを目的とした研究である。

(3)『平成 30 年度井上円了記念研究助成の交付』

・テーマ『介護支援専門員のケアマネジメント能力における「協働的能力」に関する研究 ートライアンギュレーション研究方法による「協働的能力」構成要素の抽出と構造ー』

・本研究は、介護支援専門員のケアマネジメント能力における多職種連携に必要な「協働的能力」を検証し、その具体的な内容と構造について明らかにすることを目的とした研究である。

(4) 『令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金:基盤研究(C)の交付』

・テーマ「介護支援専門員の協働的能力における家族介護者支援に関する研究」

・本研究は、協働的能力における有効な家族介護者支援のプロセスとその構造を明らかにする。更に、有効な家族介護者支援のプロセスを活用し、CM の家族介護者支援に特化した研修を構築することを目的とした研究である。

5. 改善のための努力

- 授業評価アンケートの回答率がかなり低いため、その結果を翌年に活かすための対策を検討できなった。まずは、8割以上のアンケート回答率が得られるよう、方法を工夫する必要がある。
- 授業に関連している研究成果を講義の中で示すためにも、結果のエビデンスを高める努力をする。
- FD 研修会で多くの知見を得る。
- 現行の教授方法の中で、アクティブ・ラーニングをより積極的に取り入れる。
- 学習者の理解を高めるためには、教育内容を精選し、内容を詰め込みすぎない構成が重要である。そのためには、教育カリキュラムの中で関連する科目の内容を総観し、マトリックスを作成して重要な項目を厳選する。
- 学会や研修会へ積極的に参加し、自身の学びを深める。

6. 今後の目標

【短期目標】

① 個人の授業評価を実施し、客観的な指標に基づき教育内容・方法の改善を図る。
【具体的な評価時期】:2026 年度後期の講義及び実習を中心に、各科目の形性的評価と終了時の総合評価を実施し、2026 年度末にその結果をまとめ次年度の授業計画に反映させる。

② 2 年生副チュ―ター長として、1 年次のかかわり方に引き続き、ふれあいグループ就職に対する意識付けや国家試験に向けた学習への動機付けを目指す。また、アカデミックスキルの獲得を目指し、定期的に個別面談を行い個々の学生の生活習慣の指導や学習指導、メンタル面のサポートを行う。

【長期目標】

① 本学の理念や学部学科の教育目的を達成するため、常に自身が理念や目的を再確認しながら、講義や実習指導、学生の個別指導に生かし、看護を学ぶこと、主体的に学習の楽しさと主体的な学習姿勢を身に着けられるような教育的かかわりを実践する。

② ヘルスケア看護領域長として、学科の新カリキュラム運営がスムーズに行われ、確実に成果を生むように協力体制を整える。

③ ヘルスケア看護領域長として、教員の研究教育活動を促進するため、教員間の相談・支援体制を整える。

④ 学務分掌における大学組織人としての役割を全うする。